

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491番地2		
自己評価作成日	平成26年9月15日	評価結果市町村受理日	平成26年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300015-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①今まで行ってきた生活(掃除・洗濯・調理等)を楽しみながら続けてやって行ける様支援します</p> <p>②自然に恵まれた環境の中で、自分たちで収穫した野菜やご近所から頂いた新鮮な季節の野菜で作った食事を頂き、家庭的な生活を過ごして頂ける様支援します</p> <p>③自然に恵まれた環境の中で外気浴を楽しみ、野外できれいな空気を吸いながら体操や、歌、しりとり等を楽しみます</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、開設7年となり、地域の一員として定着している。雪深く飛騨の辺地であるが、郷土色あふれた方言が、飛び交っている。ホームの自慢は、豊富な地場野菜を使い、味、量、共に満たした家庭料理で、費用は、3食650円と利用者負担を抑えた価格設定である。利用者は、地元の小学生との交流や近所の由緒ある寺を参拝するなどして、安らぎのある日々を過ごしている。職員の多くは地元の人であり、利用者と一緒に美味しい食事を作り、味わいながら、家庭的な生活を支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員は、「楽しく余生を過ごせるように」の理念を共有して利用者が培ってきた自分らしい生活が出来るよう理念の具現化に取り組んでいる	職員は、利用者が生まれ育った、地域の思い出を大切に「楽しく余生を過ごせるように」の理念を、日々確認し、共有をしている。その人の残された能力を活かし、自分らしい生活ができるよう理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や祭り、避難訓練などに参加し交流を図っている、災害時は、近隣との協力的体制ができています。又、近隣の人たちが頻繁に来所し、沢山の野菜や果物の差し入れを頂いたりしている	地域の生活情報や行事案内の回覧が届いている。町内の廃品回収や防災の共同訓練、小学校の運動会や発表会などへ招かれている。近隣からは、採りたての野菜を頂くなどの関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、ご家族や見学に見えた方の不安や心配事を聞き、認知症について理解して頂ける時間を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を定期的に行き、利用者や近隣住民の方にも参加して頂いている、年に1回、家族会を兼ね、食事を共にして皆さんの日々の様子を把握して頂いている	会議は3ヶ月ごとの開催である。出席者の中に、駐在所の警察官も加わっている。家族アンケートの結果や防災対策で、意見を交わし、そこで出た意見などを、運営や利用者の自立支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の研修や交流会、ケアマネ会議に参加している。市の担当者へは、運営の実情を伝え、課題があれば随時相談できる関係を築いている	市の担当者へは、事業所の実情を、定期的に報告している。行政主催の会議や研修会、また、会場の提供を受けた催事などへ参加をしている。ケアマネジャー会議では、有用な情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を開き拘束について学びながら、拘束や虐待をしないケアを行っている。その時々思いに寄り添い見守りや同行する支援をしている	身体拘束や虐待をしないケアを実践している。職員は利用者に笑顔で接し、その人の不安な気持ちやストレスが和らぐように対応することで拘束をしないケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、内部研修や職員間の情報交換を密に取りながら、言葉使いや行動に注意して取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について内部研修や外部研修を重ね、「本人の尊重」「利用者本位」「自立支援」といった基本理念を守る為勉強をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一部料金改正時には、新しい書類を作成し署名捺印を頂き再契約確認をしている。新規契約時には個々の消耗品の支払い方法等、十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に2か所、意見箱を置いたりアンケートを実施して家族の意見を聞き家族会で報告をし、運営や支援に活かしている	家族会を年に1回開き、家族からの意見等を聞いている。また、家族アンケートも実施して要望等を把握し、その結果を運営推進会議で話し合い、サービスの改善や運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月例ミーティングで意見を聞き、職員の意見を代表に伝えている、自分たちの思う支援方法を行う事が出来ている	管理者は、定例会議で職員からの意見や提案を聞き、話し合っている。適切な服薬管理や記録の書き方、衣類の整理などで意見を交わし、運営に反映させている。職員の学習会の機会やテーマの立て方を検討している。	今後とも、学習の機会を確保し、専門性を高め、より良いサービスが継続できるように期待をしたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日のミニミーティングや月例ミーティングで職員の思い・考え・意見の交換をし定期的に訪れる代表に伝え話し合う場を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の研修や内部研修を行いレベルアップを目指している。資格取得の要経費も認めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、地域のケアマネが集まって行うケアマネ会議への参加等、同業者と交流する機会を作り、サービスの質を上げる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人や家族の思いを知り、不安や困っている事を共有して、共に支援していく中で信頼関係を築きます		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会話を多く持ち、困っていること、不安な事、要望をしっかりと把握して、同じ方向を目指す事で信頼関係を得る様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで得た情報等から本人や家族に必要な支援を見極め共に対応していける様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方の立場に置かず、家族のように掃除・洗濯・畑仕事・調理等を共にしながら支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を、お便り・電話・来訪された時等に家族にお伝えしたり、皆さんの様子を写真にして施設内に掲示し今の様子を知って頂いて、共に本人を支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の小学校の生徒さんや派出所のお巡りさん地域の皆さんと、運動会や演芸発表会、祭り、近隣のニュース等を通してつながりを持つ様にしている	家族や孫と、回転寿司を食べに出かける利用者もある。定期的に訪れる理容店や駐在所の警察官も馴染みである。小学生やボランティアとの交流も実現している。家族と協力して、利用者の一時的帰宅を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、楽しくゆっくり過ごす場所を提供して、共感し合える仲間作が出来る様働きかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も困らない様、今までのホームでの様子を伝えている、又いつでも電話で良いので心配事が出来た時は連絡して頂けるような関係づくりに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活に寄り添い、言動や表情等から得る事や職員が得ている情報、本人が日記帳に書いている内容等を活かしている	日常の会話や行動から、個々の思いを把握し、意思疎通が困難な人は、表情から汲み取っている。また、家族からも情報をもらっている。帰宅願望の利用者には、その思いに共感しながら、その人らしい暮らし方ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネさんなどから入居前の生活環境、生い立ち等を聞きとっている、又面会に来所された方等からも情報を頂き支援に活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を日課表に書き記し、全ての職員が現状を把握して支援を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録や申し送りノート、毎日のミニミーティング・月例ミーティング等を利用し、日々必要な情報を得ながらご本人に必要な介護計画書を作成するようにしている	本人、家族の意向や職員、関係者の意見を集約して、介護計画を作成している。定期的に、介護記録内容の評価と心身の状態をモニタリングしながら、自立を支え、より良い暮らしができるよう、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の「日課表」を毎日、午前・午後・夜間と記録し、職員間で情報を共有して、日々の職員が応対しても同じような支援が出来る様活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに沿った支援(散歩・畑仕事・山菜採り・体操等)を心がけ、希望に沿った柔軟な支援が出来る様取り組んでいる		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の防災訓練に参加したり、倉庫として建物の一部を提供して機材を置く場所を提供している。地域のばら園に出かけたり、年1度プチ演芸会を開催し演芸の披露の場を提供して、小学生と地元の方達と交流を深めている	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の把握を行い、受診時には必要な情報を提供します	入居前からのかかりつけ医への受診を支援している。協力医の定期往診は、希望者が受診し、医療情報を関係者で共有している。疾患の内容により、総合病院や精神科への診療につなげている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は個々の情報を看護師に伝え、その時々に必要な指示を仰げるよう情報を共有しています	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院と常に情報交換に努め状態の把握に努めている。地域の連携室との関係も持ち退院支援に努めている	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所で出来る事を十分に説明を行い方針を共有して頂き、重度化した場合はその都度、本人・家族の意向を確認しながら対応します	利用者が重度化し、ホームでの生活が困難になってきた場合は、他の機関への移行を支援している。それに備えて、入居時には家族の同意のもと特別養護老人ホームへの入所申請を済ませている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、職員は応急処置や初期対応の訓練を定期的に行い実践力を身に付けている	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、通報訓練、避難誘導、地震に対する対処等を訓練し、地域との協力体制も築いている	消防署の指導のもと、災害訓練を実施している。避難時に、利用者には、タオルを口に当てるように指示している。事業所併設の体育館が、地域住民の避難場所に指定されており、避難用具が備えられ、地域との協力体制も出来ている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーを損ねない様に日々、内部・外部研修を行い全職員の意識を高めながら支援している	一人ひとりの人格や自主性を尊重し、誇りを損ねない言葉かけや対応をしている。本人の問いかけに耳を傾け、否定や失敗を責めないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いやその人の自己決定を大切にするため日頃より入居者の表現できないことなどを日々の支援の中から察し引き出せる様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設や職員の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の希望に沿った理・美容に努めている。又、服装も本人のこだわり、好みにそって支援するように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で野菜を育て収穫を喜び献立に取り入れ食材を話題にしながら食事をしている、野菜の処理・配膳・下膳を職員と一緒に作りメニュー書きをして頂き、食事が楽しみになるよう支援している	事業所の畑で採れた野菜を食材にし、調理師資格を持つ職員が美味しい食事を提供している。職員も利用者と一緒に同じ食事を摂り、楽しい時間を共有している。野菜の筋とりなど、利用者も出来ることを進んで関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を把握し体重管理を行い栄養状態を見る目安にしている。又、夏場の水分補給には特に注意、心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりに応じた声掛け見守りを行い清潔に努めている。義歯洗浄、洗面器などの消毒も日を決めて実施している		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレ誘導をする事を職員間で共有し自立支援に取り組んでいる。個々の状況に合わせたパットの使い分けや工夫を行っている	個々の排泄パターンに沿って、トイレへ誘導し、排泄を支援している。排泄リズムが掴みにくい人には、こまめに声をかけたり、タイミングを見てトイレへ誘導し、失敗を減らしている。、パッドは、その人に合ったものを選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を考慮し、食事の工夫や運動、外気浴、散歩等個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の健康状態に合わせて入浴介助を行い、入浴を楽しみの一つになるよう声掛け・支援している。シャワー浴や足浴も組み合わせている	浴槽は広く、ゆったりと温泉気分で入浴を楽しむことができる。利用者のその日の体調により、シャワー浴や足浴での対応もある。気が進まない人には、タイミングを計ったり、声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を調整し、何時でも休めるように支援している。夜間も睡眠の妨げにならない様に一人ひとりに合わせた休息支援に取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は誤薬が無いように名前・用法・日付けを記入し一つずつ確認のうえ職員が配薬し介助している。症状が変化した時は看護師を通じ主治医の指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で行ってきた畑仕事、掃除、山菜処理、洗濯物のかたづけなど、役割を持ちはりのある生活を過ごせる様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりの体調、希望に沿い戸外に出かけられるように、支援に努めている。又 御家族様からのアンケート結果を参考に地域の方々との協力を得ての外出支援を行っている。	ホームの周辺を散歩したり、庭のベンチでの日光浴や畑仕事も手伝っている。近くの寺へは、毎日のように出かけ、本堂で参拝している。地元の小学校行事に招かれ、交流をしている。	

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様それぞれの緒事情を踏まえて、事業所がお金を管理し物品を購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の意思を尊重し、電話をかけたり、手紙のやり取りができるように、支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所、空間については入居者様に刺激、不快感、等が起こらない様に配慮し、家庭の様な自然な場所で過ごす事が出来るように配慮している	元校舎をリフォームし利用しているため、名残りが残り、玄関や廊下、調理場、談話室も広い空間である。季節の花や、貼り絵などが飾ってある。利用者の日常生活の笑顔あふれる場面の写真がA4サイズで廊下にたくさん掛かっており、心とませ、生活感のある共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、共通の話題で共感して過ごしたり独りの時間を過ごしたりと、それぞれに気兼ね無く過ごせる場所となる様、工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自分の家の感じを醸し出しつつ、御本人の使い慣れた物や好みの物を配慮し、居心地よくお過ごし頂くよう工夫して頂くよう配慮している	居室には、馴染みの家具類や鏡台、電気スタンド、テレビなどがある。窓越しに、閑静な集落や山並み、田んぼが見えている。手づくりの表札と暖簾を掲げ、居心地のよい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を尊重しかつ安全で自立した環境作りをし、ご家族の方々にも了承を得、生活して頂くよう心掛けている		